

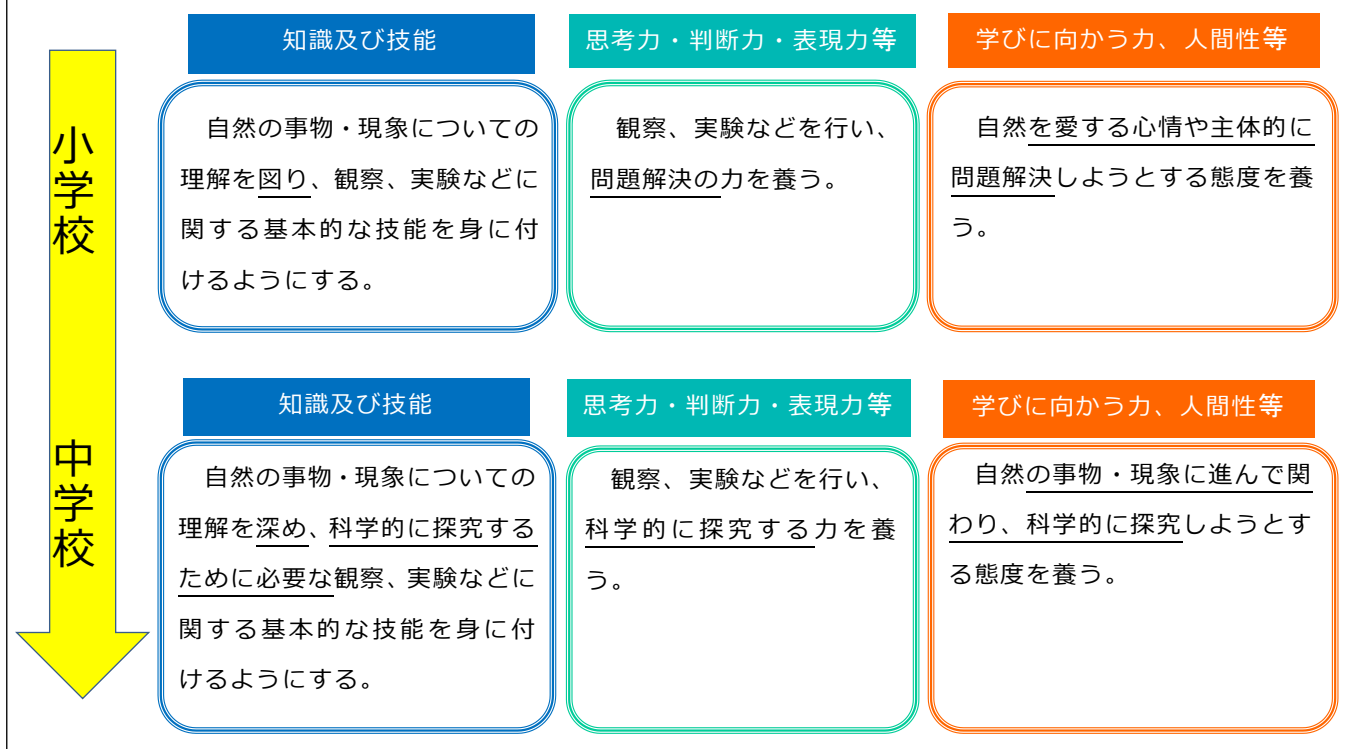
(2) ④小学校理科・中学校理科

育成をめざす資質・能力 ～何ができるようになるか～

小学校では、自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を基に考察し、結論を導きだすことができるようになること、中学校では自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的に探究することができるようになることが重要です。

【小学校理科 中学校理科 の目標】

自然に親しみ（中：自然の事物・現象に関わり）、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を（中：自然の事物・現象を）科学的に解決するために（中：科学的に探究するために）必要な資質・能力を育成することを目指す。



★目標の改善

小学校では、問題解決の活動を充実させることや日常生活や社会との関連、中学校では、自ら学ぶ意欲を重視することや科学的に探究する活動がより一層重視されています。さらに高等学校理科との円滑な接続が図られています。

具体的な教育内容の改善・充実 ～何を学ぶか～

★内容の改善・充実

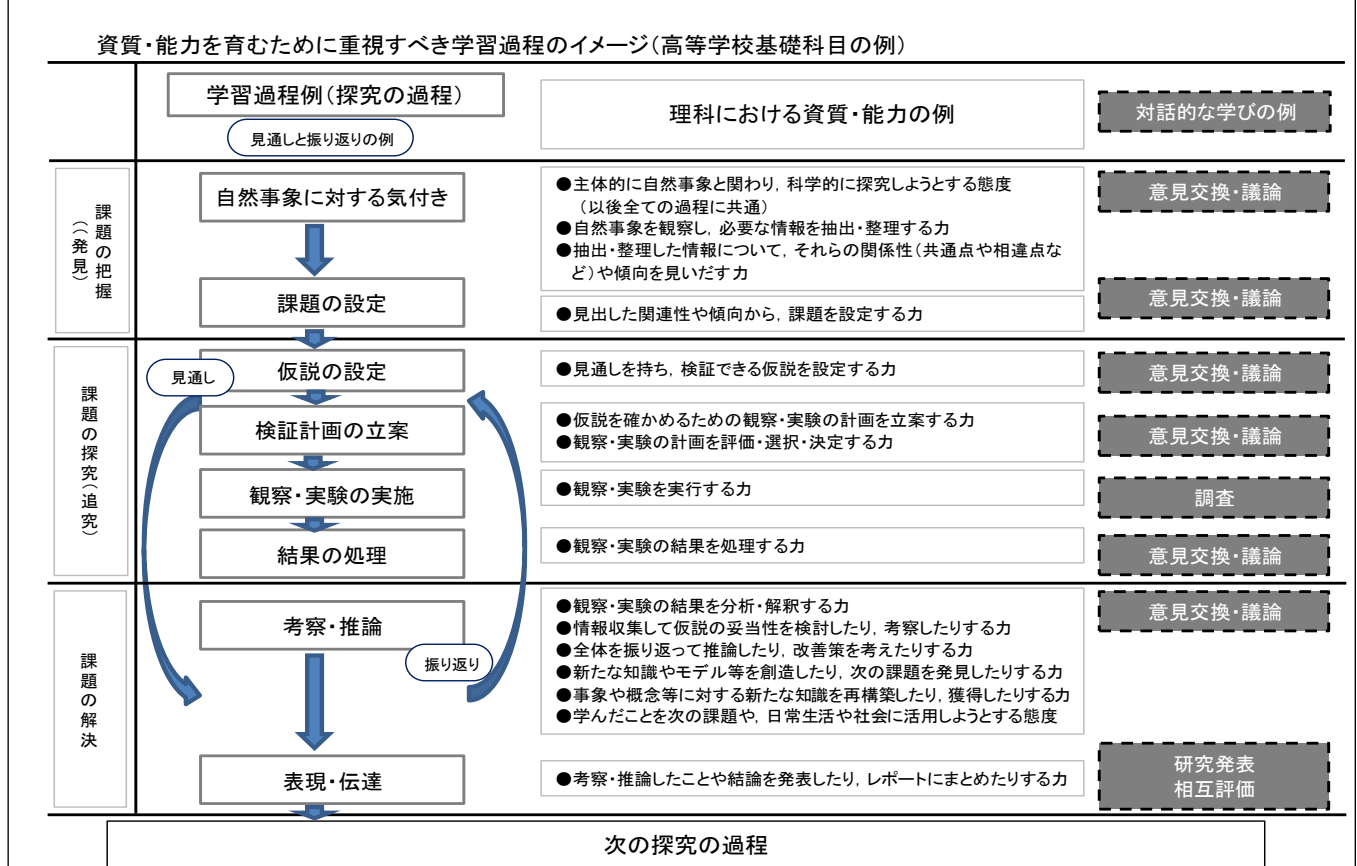
小学校、中学校、高等学校の一貫性に十分配慮するとともに、育成をめざす資質・能力、内容の系統性の確保、国際的な教育の流れなどにも考慮して内容の改善および充実が図られています。特徴的な点を小学校、中学校の校種ごとに示します。

<p>(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的を設定し、計測して制御するといった考え方に基 づいた観察、実験やものづくりの活動を充実させるこ と ・ 第5学年B(3)、B(4)、第6学年B(4)の単元において、 自然災害との関連を図ること 	<p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3学年に加えて、第2学年においても、放射線に関す る内容を扱うこと ・ 全学年で自然災害に関する内容を扱うこと ・ 第1学年において、生物の分類の仕方に関する内容を扱 うこと
<p>👉 解説 小学校理科編 p.10 中学校理科編 p.12、13</p>	

主体的・対話的で深い学び ～どのように学ぶか～

理科においては、課題の把握（発見）、課題の探究（追究）、課題の解決という探究の過程を通じた学習活動を行い、それぞれの過程において、資質・能力を育成することが大切です。図1は高等学校の資質・能力を育成する学びの過程の例です。小学校及び中学校においても基本的にはこの例と同様の流れで学習過程を捉えることが必要であると示されました。

図1 資質・能力を育むために重視する探究の過程のイメージ(中央教育審議会答申の資料を一部修正)



👉 解説 中学校理科編 p.7、9